

# 多文化共生の取り組み



多文化共生ミーティングの様子

- 1、支援グループの立ち上げ
- 2、仕組みづくり (トヨタ財団助成事業)

いきいき外国籍市民、多文化共生まちづくりの主体形成事業

- 3、場づくり (広島県新しい公共の場づくりのためのモデル事業)

## ▶多文化共生センター設置へ

- 1、「アジア人労働者を支える会」(1989年)から「ワールドシップ」(1994年)へ。  
この時期、パスポートの取り上げや、「資格外就労の強要」などが横行していたため、外国人労働者の人権を守るために支援グループを結成。
- 2、「びんご多文化まちづくりチーム」として、財団助成を受け(2009年～2010年)、関係機関や団体間の「仕組みづくり」を推進。
- 3、財団助成事業を通して、外国籍市民、NPO/NGO、行政、企業との関係がより緊密になり、日常的に「集い、交流し、学び、情報を発信する」場づくりを推進。この事業を通して、大学との関係も進む。(2011年～2012年)



「アジア人労働者を支える会」から「ワールドシップ」へ

支援グループを結成  
アジア労働者の人権を守るため「アジア人労働者を支える会」を立ち上げ(1989年)。  
しかし、1990年から増え続けた日系ブラジル人など、外国籍市民の多様化に対応するため、ブラジルやフィリピン国籍の多くが所属するカトリック教会等と共に「ワールドシップ」を結成し、支援活動を開始(1994年)。

外国人の暮らし支えよう  
教会の人や市民団体ネットワークを結成  
月刊情報紙を発行  
医療費など「基金」設立  
会員を募る



外国人に日本語教えます

グループ発足直後から、日々の生活支援、病院への付き添い・通訳など、幅広い相談に多言語(ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語)での対応を始めました。  
その取り組みの一つが、寝たきりのブラジル人の帰国を実現する取り組みです。本人の「住み慣れたブラジルで治療、療養をしたい」との希望を、多くの方の財政的、また人的な支援(医師の付き添い等)で実現しました。また、その時、寄せられた寄付金を基に、「外国人支援のための基金」を創設しました。  
また、日常生活に欠かせない、日本語支援をするための教室を開校し、日本語教室の発展につなげています。

外国人に日本語教えます  
ボランティア集め開校  
毎月2日は「互いに学び合いたい」  
福山の心「互いに学び合いたい」

## 仕組みづくりへ向けプロジェクトを立ち上げ

外国籍市民、主体形成へ向け日本語やPCを学ぶ



トヨタ財団助成事業「いきいき外国籍市民、多文化共生まちづくりの主体形成事業」として、外国籍市民、NPO、行政、企業関係者でプロジェクトチームを立ち上げ、仕組みづくりを進めました。また、外国籍市民に求められる日本語教室やコンピューター教室を開校。その結果、行政との連携事業も進みました。



外国人住民も参加する「まちづくり」  
市団体や企業の手助け  
外国人住民も参加する「まちづくり」  
市団体や企業の手助け



外国人住民も参加する「まちづくり」  
市団体や企業の手助け  
外国人住民も参加する「まちづくり」  
市団体や企業の手助け



多言語放送  
アミーゴ地球市民



住民の多国語化に対応  
2008年、多言語放送「地球市民」を開始

急増する外国籍市民支援  
エフエムふくやま  
まずポルトガル語  
緊急時生活・災害時の情報  
来月から

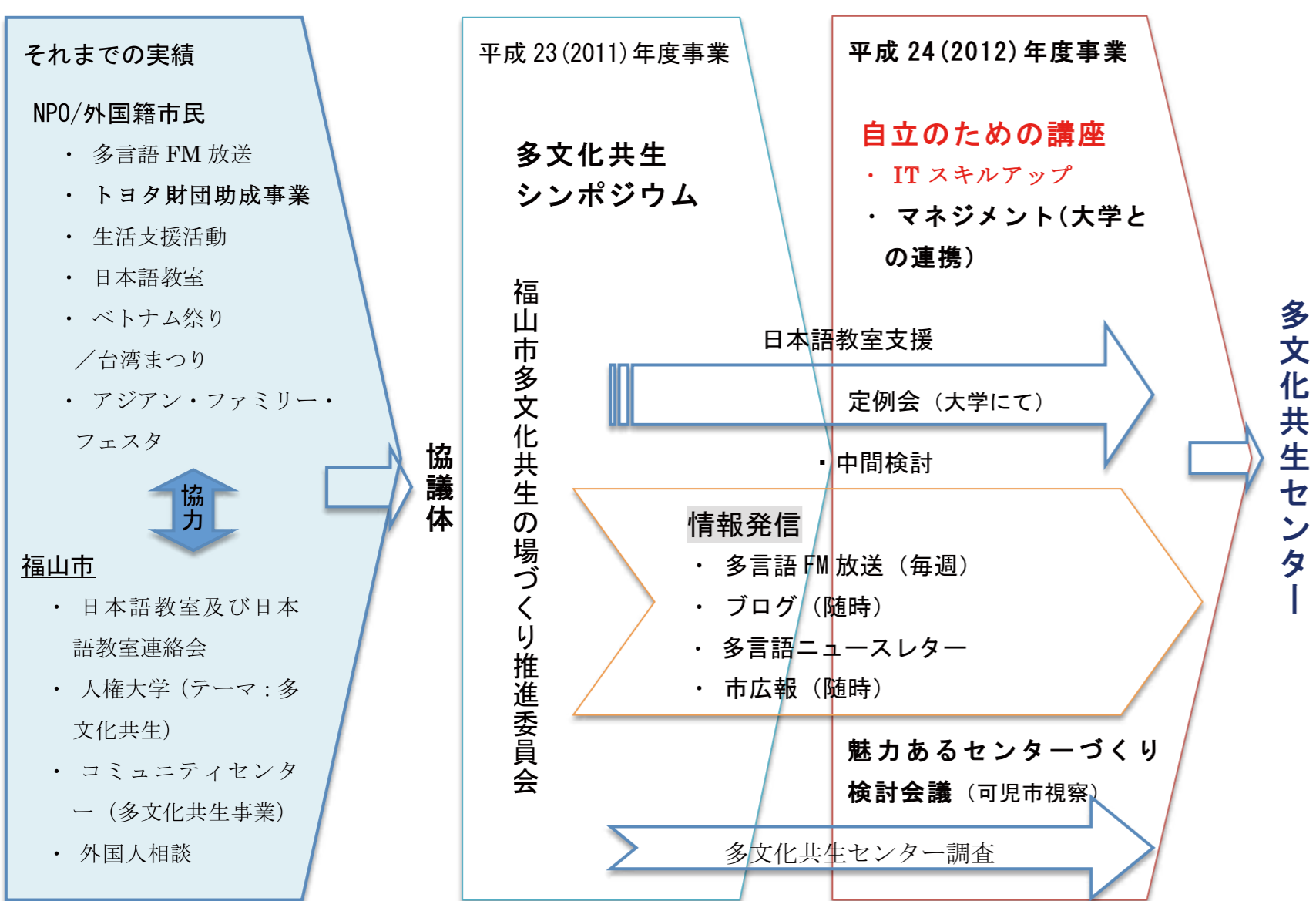
## コミュニティ放送から各地に発信



多言語放送「地球市民」  
福山・地区住民としての外国籍市民は増加し、多様化しています。しかし、必要な時に、必要な情報が得られにくいのが現状です。特に、地震等の災害時には、緊急かつ正確な情報が不可欠です。そこで、日常的には文化情報を流しながら、緊急時に対応できる多言語放送を2008年3月から始めました。  
放送使用言語  
第1木曜日：ポルトガル語  
第2木曜日：韓国語  
第3木曜日：中国語  
第4木曜日：ベトナム語  
第5木曜日：英語

多文化共生センターへ向け(2011年度～2012年度)

## 広島県新しい公共の場づくりのためのモデル事業 実施内容



## 当事者の協力関係図

